エヌエフ基金 第12回(2023年度)研究開発奨励賞を受賞して

国際超強磁場科学研究施設　特任助教　　今城 周作

この度、私の「パルス強磁場中の精密物性測定技術の開発」という研究業績に対して一般財団法人エヌエフ基金から研究開発奨励賞が授与されました。この賞は革新性と独創性が高く、かつ科学や技術の進歩・産業発展に貢献する研究開発活動を顕彰し、研究開発のさらなる発展を担う若手研究者に授与される賞です。今回の募集分野は大枠として「先端計測」「環境・エネルギー」「新価値創成」の3分野で、化学・生物・物理、そして宇宙や工学系、エネルギー関係と幅広い分野の研究者が応募する中で、私は「先端計測」の分野で受賞しました。第 7 回(2018 年度)には強磁場施設の松田研元助教の池田暁彦氏(現電通大助教)も同じ「先端計測」分野で受賞し、物性研強磁場施設の計測技術の高さが評価されているように感じました。第 10 回(2021 年度)には物性研現所員の高木里奈氏が優秀賞を受賞し、また、昨年度まで物性研の森研に在籍していた出倉駿氏(現東北大助教)も偶然にも私と同じタイミングで受賞することとなり、物性研に馴染みの強い賞であると同時に、科学技術における物性研の存在感の強さも感じました。

さて、本賞の特色については既に 2019 年 4 月の物性研だより(第 59 巻第 1 号)にて池田さんが詳しく述べていらっしゃるので、詳細はそちらを参照ください。本賞はまず全応募者から 10 名程度の受賞者が書類選考にて選出され、その受賞者がオンラインで研究発表会を行います。その発表によって更にその中から2名の優秀賞が選出されます。優秀賞の副賞は50万円で、普通の奨励賞では副賞は10万円となります。奨励賞を戴くことが既に栄誉なことなのですが、その上で受賞者たちは目の色を変えて発表スライド作りに全集中し、発表会への気合いの込め方は尋常じゃありません。事前に発表資料を提出し、受賞者全員分のスライドを確認することができるのですが、他の受賞者の完成度の高いスライドに圧倒され、あまりにも拙い自分のスライドと準備不足が恥ずかしくなりました。発表会前に池田さんと話す機会があって聞いたところ、池田さんも当時は念入りに準備をしたようで、それでも優秀賞に選出されずに敗北感と悔しさから大泣きをしたということでした(真偽不明)。そこで、池田さんに自慢するためにも奮起し、スライドの準備不足を補うために短い期間でしたが発表練習を繰り返しました。

本番は昼1番の発表で、練習のおかげでスムーズに発表を終えることができました。大変興味をもっていただけたようで多くの審査員の方々から質問をいただき、発表内容も高く評価していただけました。その良い反応から自信を取り戻していたのですが、ただ、他の受賞者の方々の発表はどれも非常に面白く、誰が優秀賞になるか全く判断がつきませんでした。

そして発表会翌月の授賞式。ドキドキしながら結果発表を聞きました。そして、結果は……、残念ながら優秀賞には選ばれず😫。全体講評によると今回は非常に接戦で、受賞者全員が審査員の一人からは1位か2位の評価を受けていたようです。授賞式後の懇親会で物性研名誉教授の勝本先生から「今城さんの発表に1位をつけた審査員の先生もおられたし、惜しかったよ」という話を伺って、次の研究も頑張ろうというモチベーションに繋がりました。

閑話休題、受賞内容についても紹介しなければならないところですが、昨年度に受賞しました ISSP 学術奨励賞と内容は大きく被っており、詳しい内容は物性研だより(第 63 巻第 2 号)を見ていただければと思います。今後も研究活動に邁進し、更なる発展を目指していきたいと考えています。

授賞式にて。